

鳥取東高通信

題字：柴山 抱海 氏

第184号
令和3年3月

編集・発行
鳥取東高等学校 PTA
鳥取県立鳥取東高等学校
印刷 日ノ丸印刷株式会社



3年間の思い出



「昔の授業プリントから」

校長 中島 靖雄

家を整理していたら、昔配った化学の授業プリントを見つけた。その最後に3年生に向けてこんな話を書いていた。

『もし君たちがこれから先の人生で、深く落胆することがあったら、今から言う「ある男」のことを思い出してほしい。』

その男は、粗末な丸太小屋で生まれた。小学校は中退。住んでいた家から追い出され、幼くして母親とも死別。州議会に立候補したが、落選。事業に失敗し破産。借金返済に17年もかかった。再び州議会に立候補し、当選。婚約したが、恋人は死亡。胸が張り裂けそうだった。神経衰弱にかかり、6カ月寝込んだ。(中略)連邦議会に立候補したが、落選。再び連邦議会に立候補し、当選。再び連邦議会に立候補したが、落選。土地管理局の役員に応募したが、不採用。

上院議員に立候補したが、落選。副大統領候補になろうとしたが、100未満の票しか得られなかった。再び上院議員に立候補したが、落選。アメリカ合衆国大統領に立候補し、当選。その男の名前は、「Abraham Lincoln」。

史実として全部が正確かどうかはわからない。しかし、確かに言えることがある。彼は生涯を通じて常に失敗に直面していた。でも、あきらめなかった。そして、51歳でアメリカ史上、最も偉大な大統領の一人となった。

人生にはいろんなことがある。うまくいかなかったとき、我々にはよく「ドンマイ!」と言う。「失敗なんて気にするな」という意味だ。でも、彼の人生に「ドンマイ!」は似合わない。彼は「失敗」だとは思っていないからだ。チャレンジを繰り返す人生の中で、彼はむしろこう思っていたのではないか。

「(今回も) ナイストライ!」

卒業おめでとう。さあ、旅立ちのとき。皆さん一人一人の「トライ」を楽しみにしている。

東高の卒業生として



学年長

田中 典之 先生

卒業おめでとう！みんなとともに、学年長として一緒に過ごした3年間。本当にあっという間の3年間でした。

3年前、みんなが入学してきたときは、「3年後には、きちんと東高生にして卒業させない」と思ってスタートしました。建学の精神や本校のよき伝統・文化などをきちんと持たせた上で卒業させたい。そのためには、しっかりと勉強させ、いろいろと経験させ、チャレンジさせ、たくさんの思い出も作らせたい。そして、社会へ出たとき、胸を張って誇りを持って「東高の卒業生だ」と言えるようにしたい。それが目標でした。あれから3年がたち、ずいぶん成長してくれたなあと感じています。

「勉強せえ！」と言いつづけた3年間でしたが、今のみんななら、きっとどこへ行っても多くの人たちにかわいがってもらえ、多くの人たちに支えられながら、社会の一員として生きていけるだろうと思います。そして、

いつかは多くの人を支えながら、頼られ、期待に応えられる人になっていくのだろうと思います。今まで親元で身につけてきた価値観や感性を大切に、惑わされることなく、信念をもって生きてほしい。そして、田舎の公立高校で、手塩にかけて育ててきたみんなが、立派な大人になって活躍する姿をいつか見てみたいと思っています。ガンバレ、東高生！

贈る言葉

卒業、おめでとうございます。3年間、みなさんと共に過ごし、成長していく姿を近くで見ることができてとても幸せでした。高校生活最後の一年は、いつもの年とは違うことが多く、かつてない大変な年となりました。しかし、それでも明るく前を向いて頑張る姿に、頼もしさを感じた一年でもありました。

私たちは、社会が大きく確実に変わろうとしている時代に直面しています。何が正解なのか、これからどうなるのかわからない世の中を、生きていかななくてはなりません。でも、どんな時でもみなさんは一人ではないのです。すぐ隣にいてくれる友人、そっと見守ってくれている家族、そんな人たちに背中を押されながら、今度はみなさんが誰かを支えられる人になってください。世の中は、だれかのためにと思って動いている人たちで支えられています。みなさんも、これからは社会を支える一員として、活躍して欲しいと思います。自分ができることでいい、身近なところからでもいい、失敗してもいい、そしてそういう自分でいいのだと自分を認め、周りの人を大切に、ささやかな日常を誠実に生きてほしいと思います。みなさんのこれからの人生に、幸多きことを願っています。



1組担任

磯尾 朋子 先生

言葉



2組担任

福長 正彦 先生

卒業おめでとう

卒業おめでとうございます。立派に成長したみなさんが、次のステージに巣立っていくことに喜びを感じています。合わせて、今までは当たり前前に学校で見かけていた姿を、見ることが出来なくなるという事にさみしさも感じています。

私は1年生から3年生まで持ち上がりで担任をさせていただき、授業等でも多くの生徒と関わりがありました。みなさんから感じていたことはエネルギーの強さです。周りに配慮が出来る生徒が多く、表立って感情を出す場面は決して多くなかったと思いますが、内に秘めた強い気持ちは誰もが持っており、自分でやると決めたことには黙々と努力を続ける姿が印象に残っています。その姿勢が顕著だったのが、3年生になってからの受験勉強です。就職試験に向かう人は、試験勉強が学校祭期間と重なり大変な時期でしたが、きちんと自分の軸を持ち学校祭準備と並行しながら、やるべき学習に取り組んでいました。進学希望者は2学期から毎週のように模試がありましたが、結果に一喜一憂せず、模試の解き直しや弱点の克服に多くの時間を割いていました。成績が伸び悩み、苦しい時期もあった事と思いますが、周りや環境のせいにはせず、自分の内面に矢印を向けて改善点を考え克服する努力をしていました。3年間でここまで成長が出来たのは、エネルギーを自分の成長に使い続けた結果だと思います。これからは、それぞれの道に進んでいきますが、今後も心を燃やして、自分を高め続けてください。みなさんはとても素晴らしい人格と、大きなエネルギーを持っています。将来は、努力で培った経験を糧にして、世の中の為にその力を発揮してってください。

2020年度鳥取東高3年生の生徒は最高だ!!!

自分の息子がいる学年の担任をするなんて、最初は「ふざけんな！」という気持ちで始まった今年1年でした。でもみなさんは、本当に素直で、純朴で、いつも笑顔で、なんでも頼みごとを快く引き受けてくれて、僕のしょうもない授業についてきてくれて、コロナウィルスの影響で県総体や学校祭の合唱がなくなった時も常にその場のベストを尽くそうとしてくれて、新しい入試の初年度で不安だらけの中、一生懸命勉強してくれて、僕の息子の友だちでいてくれて、そして何より、今年4月スタートを切ったメンバー全員と卒業式という素晴らしい日を一緒に迎えることができて、僕は本当に最高に幸せです。これほどまでに、生徒の笑顔や姿に支えられた年は今まででもそうはありません。みなさんは最高です！こんな一言で言い表せないくらい最高です！

これからの人生、うまい具合に行かないこともたくさんあると思います。でもそんな最高のみなさんなら、必ず前に進むことができます！だってみなさんは最高だからです！そしてこれからもその最高のみなさんのままで一歩一歩人生を歩み続けてくれたなら、僕はこれ以上ないくらい幸せです！みなさんの今後の人生に幸あれ！！



3組担任

冨林 紀之 先生

Congratulations on your graduation

3年前、東高に異動になり、入学したみんなと一緒に3年間を過ごすことができました。私の東高は、イコールみんなとの日々です。初めての東高祭、シンボルに苦戦しつつ最後は見事な足の巨大イカを作ったこと、スキー合宿で滑って転んだこと、北海道の研修旅行であれもこれも食べてお土産もいっぱい抱えて帰ったこと、コロナ禍での体育祭、最後のリレー。英語の授業でも、緊張しながら個性を発揮したプレゼンテーション、「もったいない」のCM作り、ポスター発表、ディベート活動。頑張っているみんなの姿を見ると、「私ももうひと頑張り」という気持ちになりました。本当に素敵な出会いと思い出をありがとう。

これから社会に出ていっても、高校時代の経験がきっとあなたの背中を押してくれると思います。こまめでやれたからこそ、もっと先に可能性が広がっています。新しいことに挑戦し、未来を切り開く勇気をもってください。辛い時は、支えてくれる家族や友人に頼って、みんなで乗り越えていきましょう。数年後、さらに輝いているみんなに会えたら最高です！



4組担任

松下 奈弥 先生

この経験を糧に

みなさんと出会ったのは昨年春でした。そのときにはすでにお互いマスクをしていて、素顔が分からない状態でのスタートとなりました。ただでさえ最終学年としてのプレッシャーがある中で、世の中が未知のウイルスに脅かされた危機的状況の中、担任までも知らない人でどれほど不安だったことでしょう。さらに追い打ちをかけるように、集大成であるはずの様々な大会や行事が中止となりました。仕方のないことだと頭で分かっていても、心や体が拒絶反応を示し、苦悩する姿を何度も目の当たりにしました。それでも気持ちを切り替え、真摯に物事に向き合い、そのとき自分ができる精一杯のことをして頑張る姿に、胸がいっぱいになりました。

私はいつも卒業する生徒に、これからの世の中は予測不可能で安泰な道はないから自分がどうなりたいかが大切だと話してきました。しかし、みなさんは高校生活ですでに経験しました。そして世の中の大人たちがこの危機をどのように乗り切ろうとしてきたかということも見てきたはず。これから先、新たな困難が迫ってもきっと乗り越えてくれると信じています。頑張ってきたみなさんの幸せをずっと願っています。改めて、卒業おめでとう。



5組担任

浅田 有希 先生

贈る

ご卒業おめでとうございます。

卒業おめでとうございます。毎年「後悔のないように、1年間に出来る限りのことをしよう」と思いながらみなさんと過ごした3年間はあっという間でした。みなさんは学校行事に一生懸命に取り組むだけでなく、日頃周囲の人と協力し、いろんなことに頑張れる人が多いと感じています。でも、そんなみなさんに足りないのは、自分の苦手なことにもがむしゃらに立ち向かうことだと思います。嫌だと思っても、避けられないことに対しては最善を尽くし、上手いかなければ次の方の方法などを考えてください。物事に偶然はなく、全ては必然です。これから、様々な出来事があると思いますが、良いことも悪いことも受け入れて、自分の限界を知り、ベストを尽くしていきましょう。大丈夫、頑張ったら必ず「道」が現れます。みなさんの未来はまだこれからです。自分を信じてください。そして、東高で学んだこと、経験したことを活かして社会で頑張ってください。いつかまた成長したみなさんに会えることを楽しみにしています。



6組担任

平尾 加奈子 先生

卒業おめでとう!!

卒業の時を迎えて、いろんなことに頑張ったり、喜んだり、悲しんだり、わくわくしたり、落ち込んだり…様々な場面のみんなの姿がよみがえります。入学から卒業まで担任として持ち上がったのはみんなが初めてで、3年間の成長をずっとそばで見られて、みんなの今しかないこの時をこの一瞬と一緒に過ごさせてもらったことに感謝しています。入学した頃のみんなを思い出すと、東高で過ごした3年間のかけがえのないたくさんの思い出や仲間との出逢いの中で、すいぶん成長したなあと思うとつくづく思います。これからそれぞれの世界に羽ばたく中で、今まで以上にもっと多くの、そして様々な人やもの、出来事に逢うと思いますが、すべてがみんなを育ててくれる大切な出逢いです。何に逢っても、マイナスにとらえるか、プラスにとらえるかは、自分の考え方一つです。いろんなことがあっても、迷いが生じて、自分を大切に、自分の決めた道を辛抱強く歩んでください。さらに成長したみなさんにまたどこかで出逢えることが楽しみです。巣立ちゆくみんなに幸多かれ！



7組担任

大西 真理 先生



1年生

冬季高原教育

1年生は、冬季高原教育を氷ノ山で行いました。



楽しむこと

1年2組 細川さくら

私はスキーをするのが怖かったです。なぜスキーをしに行くのだろうとずっと思っていました。実際3日間スキーをしていて常に緊張と闘っていました。しかし、インストラクターさんに技術を磨くより楽しむことが大切だと教えていただいてから、すごく気持ちが楽になりました。周りのみんなについていくことに必死でしたが、自分のペースで滑れるようになりとても楽しかったです。

宿舎の中での生活もただ疲れたなと思って過ごす時間より、友達と喋ったり、お菓子を食ったり、外で星を見たりなど、その時しかできない楽しみ方をした時間が強く印象に残っています。当たり前のように感じるけど忘れがちな、楽しむことがとても大切だということをあらためて知ることができました。

今年はクラスで動くことが少なくさみしく思っていました。そんな一年の中で冬季高原教育はとても良い思い出になったと思います。

日程

第1団(5・6・7組)… 2月2日～4日

第2団(1・2・3・4組)… 2月3日～5日

最高の三日間

1年1組 福田 安李

今年は、このコロナの影響でスキー研修を実施できるか心配でしたが、無事に実施することができました。僕はこの3日でたくさんのことを楽しみました。

僕はスキーを一度もしたことがなく、初日はスキー板を片方はめて歩くことすらままならず、スキー場の斜面を登るのも困難でした。しかし、インストラクターの都さんは、僕が何度失敗しても一度も僕を責めることなく、優しく指導をしてくださいました。班のメンバーも励ましてくれたおかげで、段々と上達していきました。また、初めて乗ったリフトは落ちるかもという不安があったけど、回数を重ねるごとに景色を楽しむこともできるようになりました。

最終日にはこけることなく滑れるようになり、一度だけ第二リフトに乗り、高い場所から滑ることもできました。天候も完璧で遠くの景色も眺めることだできてよかったです。

夜の友達との生活もたくさんの会話や遊びを楽しむことができ、たくさんの思い出ができた最高の3日間でした。



2年生 理数科 課題研究発表

校内本選

2年生理数科が1つのテーマを1年間かけ、少人数のグループ研究を行ってきました。研究の成果は冊子としてまとめるとともに、発表会でプレゼンテーション能力を高めます。1グループ10～12分間で発表を行い、その後も活発な質疑応答となりました。予選では、10グループを2会場に分けて行い、以下の4グループが本選へ進みました。最優秀発表賞と優秀発表賞の2グループが鳥取県高校生理数課題研究等発表会（オンライン）に出場しました。

* 1月19日（火）校内予選
* 1月26日（火）校内本選

* 2月7日（日）
鳥取県高校生理数課題研究等発表会（オンライン）

ポリアニリン類を用いた 水溶性高電圧電池の開発

大樫 拓真・中川 瑞喜・山崎 巧翔・山根 歩希



現在、電圧の高さや汎用性の高さにより、世界で多く使用されているリチウムイオン電池は、発火・爆発の危険のデメリットもある。そこで、電解液に水溶液を用いた安全で高電圧かつ充電可能な電池を作ることを研究目的とした。

電池の正極には、アニリンに置換基を導入した種々のアニリン類の高分子、負極には、種々の金属を用いて検証を行った。その結果、正極に α -ニトロアニリンポリマー、負極にマグネシウムを用いた電池で高電圧なものが作成でき、電解液に水溶液を用いた電池の壁といわれている公称電圧2Vを超える新しい電池の開発に成功した。

令和2年度

鳥取県高等学校理数課題研究等発表会

口頭発表 最優秀賞

甲殻類における走光性についての研究 ～アルテミアを使って～

神原 悠佑・小谷 明日香・小見山 典己・野廣 蒼依・廣畑 亜衣



走光性は生物が持つ基本的な特性の一つである。走光性を持つ生物種は多く、特に漁業の「漁火」は走光性を利用している一例である。この走光性に関して、鳥根大学の先行研究ではとても興味深い結果が出ている。

それは、ウミホタルの走光性が次亜塩素酸ナトリウムによって逆転したというものである。そこで私たちは、ウミホタルと同じ海水生甲殻類である「アルテミア」を用いて、走光性の逆転について研究することにした。研究の結果、アルテミアの走光性に対する次亜塩素酸ナトリウムの影響、さらにスクロースが走光性に与える影響が分かった。

キチンナノファイバーを用いた 新規材料の開発

～モサエビ廃殻の有効活用に向けて～
白水 渉太・中嶋 大貴・前田 貴博・松本 大輝・山根 志門



鳥取県では年間約60トンのモサエビ殻が廃棄されている。モサエビ殻に含まれるキチンはカニやエビ、昆虫の外皮の成分で、高強度・高弾性、生体適合性といった有用な特性を持っている。我々は廃棄される廃殻を有効活用するため、キチンをナノレベルまでほぐし、

加工が容易で活用の幅が広いゲル状のキチンナノファイバー（キチンNF）として活用しようと考えた。本研究ではモサエビ殻からのキチンの単離および、キチンナノファイバーと様々な材料を混合・反応させ、機能性ゲルの開発を行った。

イシクラゲの成長条件と 有効利用について

北後 百香・下村 陽風・田中 花菜・西山 佳那



イシクラゲは地球の陸上の広範囲に存在しており、光合成を行うため基本的に太陽が当たる場所に生息している。日本でも北海道・本州・四国・九州に生息しており、校庭や道端など身近な場所で見られる。

そのため手に入りやすく、様々な利用が期待されている。今回の課題研究ではそのイシクラゲを有効的に活用するため生態・成長条件、機能の解明を行った。結果として、光の色や土壌の違いによってイシクラゲの成長の様子が異なり、またイシクラゲは植物の成長を促進させるなど、農業に有効活用できる可能性も示唆された。

他にもたくさんのチームが様々な研究を行いました!!

- 「循環小数の循環節についての研究」●「Praatを用いた英語教育の発音指導に関する数値的研究」●「鳥取砂丘におけるマイクロプラスチックの研究」
- 「ミツバチの巣におけるハニカム構造に関する研究」●「電流計・電圧計が回路に及ぼす影響の研究」●「植物の発芽・成長におけるイオン液体の影響について」

東高PTA&OB合唱団へのお誘い



昨年の東高祭PTA合唱は、コロナ禍で中止となってしまいましたが、今年はオリンピックの開催、コロナの収束を願って、『栄光の架橋』を歌いたいと考えています。本番前には、週一回の練習で尾崎先生のご指導のもと和気あいあいと練習しています。東高祭PTA合唱が復活しましたら、PTAのみなさん、奮ってご参加ください。

日露リモート交流で感じたこと

3年2組
牧 浦 太陽

今回私は、「日露リモート交流」に鳥取県代表として参加させていただきました。2日間で各国から10人程度が参加し、コロナウイルス感染症が流行する中での過ごし方や将来の夢や目標、趣味などを話し合いました。

昨年、柔道を通じたロシア交流に参加していた私は、コロナ禍の中、ロシアの人たちがどのようにして生活しているのかが気になっていましたが、それを知ることができました。また、自分たちが発表する時なども、しっかり耳を傾けて積極的に質問をしてくれるロシアの人たちを見て、日本が大好きだと思いが伝わってきました。



交流を終えて、これからも日本とロシアの関係が深まって欲しいと思うとともに、この体験で学んだことを活かしていきたいと思います。また、今回の交流にご尽力いただいた関係者、先生方に本当に感謝しています。



12月以降の各種大会結果

◇柔道

全国高等学校柔道選手権大会鳥取県大会(12/12~13)

- 男子団体 準優勝
- 男子66kg級 西原 旺祐(1-2) 3位
- 男子73kg級 田口 英永(2-2) 準優勝
- 男子81kg級 児玉 颯来(1-4) 3位

◇バスケットボール

鳥取県高等学校バスケットボール新人大会(1/11~13)

- 男子 2回戦進出
- 女子 準優勝 中国大会出場
- 優秀選手 下田こころ(2-1)

中国高等学校バスケットボール新人大会(2/5~7)

- 女子 1回戦 鳥取東 56 - 65 明誠(島根)

◇ソフトテニス

第39回鳥取県高校インドア選手権(2/6)

- 男子個人 中嶋 大貴(2-7)・安木 謙(2-2)組 3位

◇バレーボール

鳥取県高等学校新人バレーボール大会(1/17~18)

- 男子 決勝トーナメント進出
- 女子 ベスト4 中国大会出場

中国高等学校新人バレーボール大会(2/12~13)

- 女子 1回戦 鳥取東 0 - 2 山口鴻城

◇水泳

第41回鳥取県室内選手権水泳競技会(12/13)

- 女子個人 本田 志帆(2-1) 200m個人メドレー 優勝
- 50m自由形 優勝
- 100m平泳ぎ 優勝
- 200m背泳ぎ 3位
- 50m自由形 3位
- 100m自由形 3位
- 200m個人メドレー 3位

◇書道

第52回県高校書道展(12/7~10)

- 村上 奏(2-3) 連盟賞・近畿高総文祭出場
- 山本 菜摘(2-1) 連盟賞
- 岡村帆乃佳(2-4) 奨励賞
- 竹本 柊香(2-7) 奨励賞

◇美術

第35回鳥取県高等学校総合文化祭美術・工芸展(12/8~11)

- 吉田 聖菜(1-7) 学校奨励賞

◇吹奏楽

第43回

全日本アンサンブルコンテスト

鳥取県大会(12/13) 金管8重奏 金賞

◇演劇

鳥取県東部地区高等学校演劇新人発表会(2/11) 出場



「支配」吉田 聖菜



「ゆき(自作)」村上 奏

◇令和2年度万葉の郷ととりけん

全国高校生短歌大会(12/13)

- 団体 しのめ三人娘 全国3位
- 放課後の光さしこむ教室にもういないのに君の声がある
田中 綾音(2-1)
- 行くたびに狭く感じる祖母の家柱の印どンドン上へ
山本 菜摘(2-1)
- 自転車で行く坂道の向日葵も育っているよピンと背伸ばす
市村 恵奈(2-1)
- 個人
- バスに乗る時間がなくなるたびに
回りの木々が大きく育つ
森本 有咲(2-3) 審査員特別賞(全国3位相当)

◇第九回〜家族を歌う〜河野裕子短歌賞(青春の歌部門)

(12/6)

うすくなる祖父の手のひらつかんでいる
つかまれていたはずだったのに
下田 紗希(3-4) 選者賞(全国3位相当)

虫かごをぶら下げ飛び出す弟に
なんだかついて行きたくなった
三谷 梨華(3-4) 京都女子学園長賞
(全国4位相当)

健康・生活部 Column

わかったぞ! 免疫力!!

この時期いろんなものに負けちゃいけないと思う。そうだと免疫力をあげてみようと思ったのだが…。そもそも免疫力って何!? 今まで深く考えてこなかったのが検索してみると…免疫力とは体内で発生したガン細胞や外から侵入した細菌やウイルスなどを常に監視し撃退する自己防衛システムみたいなものだ、しかもこのシステムは15歳までにできあがり、20歳を超えると力は落ちていくらしい。

もうみなさん、できあがっちゃってますよね…。

でも毎日の生活の中で免疫力を上げることができるらしいのです。まずは栄養のバランスのとれた食事をとる。次に適度な運動を無理せず自分のペースで続けていこう。そしてゆっくりお風呂に浸かり全身をほぐしながら芯まで温まり体温を上げましょう。あとはぐっすり眠る、昼間の緊張から解放されて心底リラックスしよう。最後にもう一つ思いっきり笑う事、笑うと血行が良くなりストレスが減り免疫細胞が活性化するそうなんです。なんか私にもできそうです。

今年はいろんなものに勝てないかもしれない…。だけどできる事をコツコツしてたら負ける事はないんじゃないかと思う。みなさんもできそうな事からやってみて、前に進んでいきましょう!!

東高のHPで健康・生活部の活動報告や栄養バランスのとれたレシピ等を載せてますのでのぞいてみてくださいね。

(健康・生活部 有田 真紀)

人権コラム 虹のしっぽ

障がいがある方に関する マークを知っていますか?

主にまちで見かけるものは、次のようなものがあります。

障がい者のための
国際シンボルマーク
障がい者が利用できる施設
などであることを示します



身体障がい者標識
肢体不自由者の運転する
車に表示されています



聴覚障がい者標識
聴覚障がい者の運転する
車に表示されています



視覚障がい者標識
視覚障害者の安全やバリア
フリーに配慮された場
所、設備などを示します



耳マーク
耳が不自由なことを
表します



ほじょ犬マーク
盲導犬、介助犬、聴導犬の
同伴の啓発のために施設
や店の入り口に表示され
ています



ヘルプマーク
援助が必要な方の
マーク



他にもマークは、いくつかあります。このようなマークを見かけたら、援助や配慮を必要としている方がいることを思い出し、思いやりの行動をしていきたいです。

〈人権コラム「虹のしっぽ」について〉虹にしっぽなんてあるわけないと決めつけないで…。もしもあるなら見つけてみたい。考えるだけで楽しい気分になりませんか?



前進！三年間を振り返って！

三年保護者 濱本 義則

息子の鳥取東高合格発表を涙ぐみながら嬉しそうに電話してくれた声が今でも耳に残っています。私は息子の蔭で再び母校と関わることで、また同級生と保護者として再会でき喜びが増しました。今年度は文化広報部の部員として微力ながらお手伝いする機会をいただきました。

鳥取東高通信の作成を通じて、生徒の頑張る姿や先生の想いに触れ、私自身も当時の記憶が蘇り、とても有意義な部員活動となりました。

また、息子は友人や先生のお蔭で勉強も部活も充実した様子であり、熱心に取組む姿は私自身の励みとなりました。今日まで無事に過ごすことができた感謝の気持ちでいっぱいです。息子は、自分の決めた目標に向かって努力する姿勢は今も同じです。高校生活で培った精神を糧にして、次のステージに向かってさらに前進してくれるものと願っています。

高校卒業に当たっての親の思い

三年保護者 米原 智子

早いもので、末っ子の高校三年間が終わってしまおう。それと同時に、三十年続いた子育てという人生最大のイベントがなくなり、若者のいる生活も一時中断となってしまう。中断ならいいがそのまま終了もあり得

ると思えば、県内でも良かったんじゃないか？寂しいじゃないか！と一人悶々とする毎日である。

人生の終わりにまで一緒に過ごす日数は、盆暮れゴールデンウィーク合わせて年間二十日×年数程度しかないわけで、僅かに残った高校生活を楽しんでいける我が子との日々を大切にしていきたいものだと思う。

他人に気を遣い、美容院に予約の電話を入れれば、「業者さんか」と思った。などと言われる子だが、本当は結構引込み思案で人前で話すのを苦手としていたらしい。そんな我が子は、部活や学級でちょっとした役を付けていたでいて「やればできるのだ。」と自信を持つことができたようだ。

大学に進んでも、社会に出て、やることはたくさんあるのだ。上杉鷹山の名言を、卒業するみなさんに贈りたい。

『なぜ成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人が為さぬなりけり』

『道』

三年保護者 坂本 一美

「お母さんが来たから見せるって言って、ずっと握ったままなんです。」と、困った顔で話す保育士の先生。どうやら、三歳の息子が朝から夕方までの六〜七時間も左手を握りしめたままだと言う。息子に近づくと、少しはにんだ笑顔で、ゆっくりと手を開いてくれた。……その瞬間、周囲の誰もが、いや、本人でさえも驚いた！小さな手のひらにいたのは、一匹の黒いダンゴムシと、一〇〇匹近くの白いダンゴムシの赤ちゃん。何と、息子の手のぬくもりでダンゴムシは出産を迎えたのだ。

今思えば、ようやく自律性が芽生

える幼児期から、息子の進む道は全く揺るがなかった。

そして、息子の「生き物捕獲劇」は成長と共に進化をとげていく。カマキリやセミに始まり、クワガタやカブトムシはもちろん、ドジョウやナマズ、イモリやトカゲ、挙句の果てには、黒いバツヤや赤いキリギリス、白いザリガニなどの珍品も捕獲するようになった。

そんな八歳の夏、捕まえた虫が何なのか図鑑で調べても分からず博物館に持ち込むと、すぐさま名前や住む環境まで丁寧に教えてくださる学芸員の川上先生に出会った。

人間と動物が共に生きる環境を考え、後世につなぐ学芸員、小学生の息子の憧れは、いつしか将来の夢、進む「道」となった。

本来、人は誰しも迷い、岐路に立つ度に悩む選択する。だが息子は、好きなものを素直に好きだと貫いてきた。それは、当たり前のようで当たり前でなく、とても素敵で立派で誇らしい。

一直線に歩んできた「道」が、これから息子の中に続き、自分らしい未来へ導いてくれることを願う。

絆

三年保護者

うちの子が東高へ進学を希望したのは母親の母校であるからだろう。自分はそう考えていました。その事もあったようですが、彼女にはそれ以上にここで頑張りたいという気持ちがあったのではないかと、今になってはそう思います。

彼女と母親は親友のような関係です。とても仲が良く、ケンカも日常茶飯事です。それだけお互い言いたい事を言い合っている関係であると

いう事です。自分が彼女と初めて出会ったのは彼女が中学生の頃。要は自分が義父となった訳です。多感な年頃であった事もあり受け入れてもらうのに時間がかかりました。東高へ通っている三年間は彼女にとっても保護者となった自分にとっても充実したものであったと感じています。数学が得意であった自分に「数学教えてくれ」と言ってきた面倒臭そうに教えていましたが、本当はとても嬉しかったのをよく覚えています。少しづつ絆が深まっているのかなと考えているともう、彼女は大学へ進学し自分の道を進んでいってしまふのだなと寂しい気持ちになります。これからは彼女を全力で応援していこうと思います。

東高での経験を胸に

三年保護者

今年は異例尽くめの一年。部活動の自粛、インターハイや国体の中止、学校の行事も縮小や保護者の参観不可となった。高校生活最後の年は、思いっきり息子を応援するつもりでいたが、私の思いは結局不完全燃焼に終わってしまった。部活を引退した後、「さっ、切り替えて勉強するぞ」という息子の一言に、私も入試サポートモードに切り替えた。

先週末、初の大学入試共通テストの受験を終え、次のステージに向かう準備をしている息子を見てみると、私の趣味である「子育て」があと数年で終了してしまうのを寂しく感じた。

先日もらった東高通信には、今年度の東高祭の写真がたくさん載っていた。表紙の三年全体の写真は、生徒も先生方もみんな同じポーズで、楽しく終えられたんだらうなと感じられた。自分の写真が「あと二つある」

と息子が言うので探してみると、模擬店の店員、クラス演技の女子高生役だった。予想外の写真に、この東高での生活がとても楽しく充実したものだったことが想像できる。これも高校で出会った友達、先生方、関わってくださったみなさんのお陰。東高での経験全てに感謝し、これからの人生、大いに羽ばたこう！卒業おめでとう。

娘へ

三年保護者

入学式の数日前、何もない部屋、何もない場所からスタートしたのが嘘のように感じます。そんな時でも娘の前向きで努力する姿勢は親として見ていても尊敬しました。東高に入り自分のやりたかった部活と勉強を上手に両立してましたね。

部活は入学前から自主参加し、朝練・遠征・試合、一緒に楽しませてもらいました。保護者さんとの繋がり部活友達との繋がり、私も同じ部活をしているような気持ちにさせてもらいました。

三年間、担任の先生にも恵まれ娘がつまずかないよう支えていただき感謝しています。毎日のお弁当も残さず食べてくれました。いい匂いのする洗濯の仕方も教えてくれました。

三年前、何も無いと感じていた娘はたくさんのお会いや経験を今は持っています。これから先も今しかできないことをどんな環境になっても楽しんで自分の道を進んでください。卒業おめでとう。

鳥取東高通信184号に写真、原稿等で協力いただいたみなさまに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。文化広報部「同

祝 卒業

令和2年度卒業生

